

市立明石商業高等学校福祉科創設にかかる検討会の設置について

本市における福祉のまちづくりの一環として、将来にわたり、ますますニーズの高まりが予想される福祉人材の育成を目指し、市立明石商業高等学校に福祉科を創設することにつきまして、関係者による検討を行うための検討会設置並びに、第 1 回検討会の概要をご報告いたします。

1. 委 員（6 名）

福祉系大学名誉教授

福祉事業従事者

市立中学校関係者（校長、進路指導担当教諭）

明石商業高等学校関係者（校長、保護者代表）

2. 検討会の主な論点

- ①中学生の入学ニーズ
- ②福祉科教員の現状と確保
- ③施設整備（実習棟の規模、設置場所等）
- ④福祉科定員及び全校総定員
- ⑤福祉科の教育活動における特色づくり

3. 第 1 回検討会について

○日時・会場：8 月 2 5 日（水）1 5 時～1 6 時 3 0 分

○出席委員 5 名（明石商業高等学校保護者代表は欠席）

○議事（1）～（4）について、各委員から現状報告や意見等が出されました。

（1）福祉人材の現状について

- ・市内では福祉人材は不足気味である。
- ・若い世代の就職が少なく職員の高齢化が進んでおり若い人材の確保が課題である。
- ・福祉で働く人が社会的に認められないと若い人材の確保が難しい。

（2）福祉系高等学校の概要について

- ・福祉系大学の学生で、福祉系高等学校の出身者は特に熱心に学習する印象がある。
- ・商業科等の生徒にも福祉の知識や考え方は必要な要素であり、市立高等学校としての役割を考え、前向きに捉えている。
- ・福祉科創設について、明石商業高等学校の教員の中でも、現段階では反対の声は聞いていない。明石市内の教員、生徒、保護者が一体で取り組めば、明石商業高等学校が福祉のまちのシンボルとなることも可能だと思う。

（3）明石市立明石商業高等学校の現状について

- ・中学 3 年生の進路選択では、商業科を志望する生徒は、それほど多くない。高等学校卒業後の進路について就職よりも大学等への進学を希望するケースが多く、全体的に普通科を志望する傾向が強い。

- (4) 福祉科創設にあたっての重要事項（入学ニーズ、教員の確保、定員等）について
- ・教員確保について、施設職員を講師として派遣するなど、福祉事業者として積極的に協力したい。
 - ・中学時代に「トライやる・ウィーク」で福祉施設を体験した人が、社会人となって職員として施設に就職した事例もある。中学生で福祉に触れる機会が重要だと思う。中学生で福祉を学ぶ機会を作ってほしい。

※なお、「福祉科創設にあたっての重要事項（入学ニーズ、教員の確保、定員等）について」は、第2回検討会（10月）において詳細に議論する予定。

4. スケジュール

令和3年10月	第2回検討会開催 教育委員会に第2回検討会の報告
11月	第3回検討会開催（まとめ） 検討会の検討結果を市長及び教育委員会に報告
12月	市議会文教厚生常任委員会で「検討結果」を報告
令和4年2月	社会福祉審議会に「検討結果」を報告